

進化するモバイルソリューション 今すぐ注力すべき4つの理由

企業向けモバイルソリューションは2009年、ブレイクスルーの年を迎える。いかにモバイルを自社の提案にうまく取り入れたかが、通信系ディーラーやNlerのビジネスを大きく左右する。

文 太田智晴(本誌)

金融危機に端を発した世界同時不況の影響を受け、急速に冷え込んだ企業ネットワーク市場。通信系ディーラーやNler/Slerにとって、2009年はかつてなく厳しい年になりそうだが、しかしそれはあくまでトータルでの話だ。個別に見れば、ビジネスチャンスはいくつも転がっているだろうし、この環境下でも業績を伸ばせる企業も間違いなく存在する。

では一体、ビジネスチャンスはどこにあるのか。本誌が考えるその答えは「モバイル」である。

もちろん、モバイルはこれまでから企業の間で利活用されてきた。その意味では「何を今さら」と思う向きもあるだろう。だが、モバイルの進化は早い。企業がモバイルを利活用するうえで従来ボトルネックとなっていた課題が次々と解消されており、過去のモバイルのイメージに囚われていては、大きなビジネスチャンスを逃しかねないことも事実なのだ。

つまり、どれだけうまくモバイルを自社のビジネスに取り入れたかによって、業績の明暗はくっきりと分かれ

かねない。ここでは、新しいフェーズに突入しようとしている企業モバイルのポイントを概観する。

Point 1 ブロードバンド化とビット単価の低減

FTTHを積極展開する親会社を持つNTTドコモは立場上そうは言えないのだろうが、モバイルと固定の競争は今後、必ず起こってくる。

昨年11月に総務省で開催された3.9Gに関する公開カンファレンスで、イー・モバイルのエリック・ガン社長はこのような趣旨の発言を行った。

ガン社長のような見方は、決して少数派ではない。実際、日本でも個人ユーザーや小規模事業所などで、

図表1 現行および今後2年以内にサービスが始まる主なモバイルブロードバンド通信方式

	HSPA (HSDPA/HSUPA)	HSPA Evolution (HSPA+)	LTE (Super 3G)	CDMA2000 1xEV-DO Rev.A	モバイルWiMAX (IEEE802.16e-2005)	次世代PHS (XGP)
最大データ通信速度	下り: 14.4Mbps 上り: 5.7Mbps	下り: 43.2Mbps 上り: 11.5Mbps	下り: 300Mbps 上り: 75Mbps	下り: 3.1Mbps 上り: 1.8Mbps	下り: 40Mbps 上り: 10Mbps	下り: 20Mbps 上り: 20Mbps
無線アクセス	CDMA	CDMA	OFDMA (上りはSC-FDMA)	CDMA	OFDMA	OFDMA
帯域幅	5MHz	5MHz	20MHz	1.25MHz	20MHz	20MHz
標準化団体		3GPP		3GPP2	IEEE802.16	PHS MoU Group
商用サービス開始時期	提供中	今秋?	2010年	提供中	今夏	今年10月
提供(予定)事業者	ドコモ、ソフトバンク、イー・モバイル	ソフトバンク、イー・モバイル	ドコモ、KDDI、ソフトバンク、イー・モバイル	KDDI	UQコミュニケーションズ	ウィルコム
備考	現行サービスの下り最大速度は7.2Mbps。また上りは1.4Mbps。	LTEでも使われる64QAMなどの採用により高速化を実現。イー・モバイルはまず下り最大21Mbpsで提供を開始する計画。	OFDMAやMIMOの採用などにより、大幅な高速化と低遅延化を実現する3.9G。	Rev.Aの上位規格「Rev.B」もあるがKDDIは導入しない計画。	最大データ通信速度はサービス開始時の値。次のステップで下りは最大80Mbpsに高速化予定。	将来的には100Mbps超まで高速化予定。データ通信速度が上下対称な点はPHSならではの特徴。